

国立駅南口子育て・子育て応援テラスについて

(1) 施設の設置経過

国立駅南口子育て・子育て応援テラス(以下「国立駅南口テラス」)の設置場所である国立駅周辺では、以前から「子どもの遊び場の不足」が課題となっており、平成29(2017)年2月に策定した国立駅南口複合公共施設整備基本計画では、国立駅南口公共施設等用地エリアのコンセプトを「子ども・文化・賑わい」とし、子育て支援機能を持つ施設を整備する予定であった。

そのような中、市民から JR 東日本が所有する旧国立駅舎の東西の土地を広場として確保したいという要望があり、市が所有する国立駅南口複合公共施設用地と JR 東日本が所有する旧国立駅舎の東西の土地との用地交換協議を重ね、令和3(2021)年3月に合意に至ったところである。この合意により、JR 東日本の関連会社が計画する賃貸住宅棟内に、国立駅南口複合公共施設整備基本計画に沿った子育て支援機能を持つ本施設を整備することが可能となった。

以上を踏まえ、市では令和4(2022)2月に「国立駅南口複合公共施設整備基本計画」を継承する形で、子育て支援機能を持つ公共施設の整備に向けて、「国立駅南口子育て支援施設整備方針」を策定し、「子育て・子育て」を柱としたコンセプトや導入機能等について方向性をとりまとめ、令和5(2023)11月より整備工事に着手したところである。現在、整備工事が進められており、令和7(2025)年7月のオープンを予定している。

(2) 施設構成

名称	主な機能	㎡数
子育てひろば	未就学児が様々な遊びに触れることで健やかに成長する幼児教育推進の場であるとともに、子育て家庭の交流・相談の場として育児負担軽減を図る施設	270
一時預かり室	保護者の買い物やリフレッシュ等を目的として、一時的に子どもの預かり(保育)を行う施設	55
交流・学習スペース	フリースペースとして、机、いすを設置するとともに、キッチンスペースを設け、学習、飲食、歓談、交流、小規模イベント等に活用する施設	60
情報ストリート	交流・学習スペースと同様のフリースペース。道路に面した施設であることから、情報発信拠点として様々な情報に触れることができる場であることに加え、学習や読書に活用できるカウンターデスクも設置し、幅広い用途での活用が可能な施設	155

(3) 国立駅前テラスの特徴

国立駅南口テラスは、令和5(2023)年4月に開館した矢川プラスと同様、市が設立した社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団(以下「事業団」)が指定管理者となり管理運営を担う。矢川プラスで得た知見を国立駅南口テラスにも生かしつつ、下記の特徴を持った施設運営を行っていく予定。

①子どもも保護者も安心して過ごすことができる子育てひろば

矢川プラスの大きな魅力の一つである子育てひろば「ここすきひろば」は、0歳から就学前までの子どもと保護者が安心して遊ぶことができる室内のひろばであり、開館から1年間で33,000組以上の親子が来所。(市が掲げた目標の3倍以上)

「子どもとともに育っていく」視点を大切にしながら、ひろばに来れば日々の楽しさや大変さを誰かと共有できる空間を目指し、研修を受けたスタッフが必ず利用者フロアに出て、①利用者とコミュニケーションを取りホスピタリティを発揮すること、②玩具や絵本の含む物的環境は、幼児教育環境の専門知識に基づき、子どもの「みずから育つ力」を応援できるよう、質の高い玩具等選定・配置されていることが大きな特徴。

国立駅南口テラスの子育てひろばにおいても、同様のコンセプトをベースに矢川プラスで培った実績とノウハウを加え、魅力的な子育てひろば運営を展開していく。また、事業団が管理する子育てひろばが複数になることにより、両施設における実践結果や課題を共有しあう好循環が生まれ、より質の高いひろば運営が可能となる。



↑国立駅南口テラスの子育てひろばイメージパース

②地域子育て相談機関

地域子育て相談機関は、令和4(2022)年に改正(施行は令和6(2024)年)された児童福祉法により新たに設置が努力義務化された機関であり、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的に相談支援を行う機能を有する機関。相談の敷居が低く、能動的な状況確認等による「子育て世帯と継続につながるための工夫」を行う相談機関。行政を補完し、その「目となり、耳となる」と定義されている。

国立市では国立駅南口テラスを市初の地域子育て相談機関として位置づけ、子ども全般の相談支援体制の強化を図っていくこととしている。地域子育て相談機関は、同改正で同じく自治体への設置が努力義務化された子ども家庭センター(母子保健機能と児童福祉機能の一体的な運営)と緊密な連携を行っていく必要があることから、子ども家庭支援センターの子育てひろばである矢川プラスのここすきひろばと同様、市と事業団間で適切な連携を図っていく。

③利便性の高い一時預かり事業

国立駅南口テラスでの一時預かり事業は、国立駅周辺という立地条件を踏まえ、①土日祝日の利用が可能(週6日開所)、②1時間単位の受け入れ、③オンライン予約が可能といったように保護者ができるべく手軽に、また様々な用途で利用できるような受け入れ態勢としている。詳細は下表を参照のこと。

項目	内容
預かり対象児童	満1歳から小学校就学の始期に達するまでの児童
利用できる者	国立市在住の預かり対象児童の保護者
開所日	月曜日から日曜日まで(火曜日を除く週6日間実施)
閉所日	火曜日 年末年始(12月29日から翌年の1月3日まで)
開所時間	午前10時から午後5時まで
利用回数及び時間	原則として、預かり対象児童1人につき1日最長4時間。 1か月につき8回までの利用とする。
定員	6名
料金	1時間 800円
登録及び利用申請の受付方法	インターネットを利用した予約管理システムにて、保護者が利用登録申込や利用予約を行う。 ※施設窓口及び電話での利用登録申込も可能 利用日の1か月前より、利用予約が可能
利用のキャンセル	利用予定日の前日正午まで(前日が閉所日の場合は、前々日の正午まで)にキャンセルした場合は、キャンセル料を徴収しない。正午以降は、児の体調不良、やむを得ない理由を除きキャンセル料(100%)を徴収

④様々な世代・人々が集いやすいフリースペース

国立駅南口テラスは、学習・交流スペースと情報ストリートという誰もが利用できるフリースペースが整備されている。交流・学習スペースは、設計時に子どもたちの意見を取り入れ、個別ブースの設置、Wi-Fi環境の整備、コンセントの設置を行う等、利便性の向上を図っている。同スペースには簡単な調理が行えるキッチンスペースも設けられていることから、様々な用途での活用が期待できる。

もう一つのフリースペースである情報ストリートには、交流・学習スペース同様、読書や学習に活用できるカウンターデスクが設けられている。さらに、幅40mの広範なエリアにわたって展示スペースが設けられており、子育てや子育てに関する情報のみならず、市をはじめとした様々な情報発信を行う場として活用していくことも検討されている。

また、市が掲げるソーシャル・インクルージョンのまちづくりに基づき、車椅子優先トイレやジェンダーレストイレの設置、車いすでの利用が可能なよう各種空間に配慮を行っている等、多様な人々が集うことが可能な施設とした。



↑情報ストリートイメージパース

(4) 開館スケジュール

日時	内容
令和7年2月1日	事業団による施設運営(準備作業含む)が開始
3月中旬	建設工事完了
4月~5月	備品調達、スタッフトレーニング等
6月中旬	プレオープン
7月	開館